

令和6年度（農）アグリ越前 ドローン大麦病害虫防除ならびに追肥スケジュール

大麦病害虫防除

	1回目		2回目		散布予定地区	使用薬剤	
	1回目面積	日数	2回目面積	日数			
吉野	8.8	1	8.8	1	片屋	トップジンMソル	ミラピスF
大虫	16.5	1	16.5	1	上太田 下太田	トップジンMソル	ミラピスF
北新庄	40.6	2	40.6	2	北 真柄 杉崎 戸谷 長尾 三ツ屋 中新庄の一部	トップジンMソル	ミラピスF
北日野	4.2	1	4.2	1	矢船	トップジンMソル	ミラピスF
味真野	5.8	1	5.8	1	萱谷	トップジンMソル	ミラピスF
合計	75.9		75.9				

151.8

追肥散布

	1回目		2回目		散布予定地区	散布肥料				
	1回目面積	枚数	2回目面積	枚数						
吉野	0.75	2	-		片屋	硫安				
北新庄	1.30	3	-		戸谷	硫安	N45 試験肥料			
南条	0.57	2	-		脇本	そらまき君	尿素			
合計	2.1		0.0							

2.1

令和6年度 スケジュール表

	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日	4月21日	4月22日
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
地区名1									上太田	矢船	三ツ屋/戸谷	戸谷/北	
開始時間									5:00	5:30	5:00	5:00	
機体数									1	1	1	1	
地区名2		肥料散布	肥料散布						片屋/下太田		杉崎/真柄	北	萱谷
開始時間			(予備日)						5:00		5:00	5:00	5:00
機体数									1		1	1	1
機体総数		1							2	1	2	2	1
総散布面積													

	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	合計
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
地区名1			上太田	矢船	三ツ屋/戸谷	戸谷/北							
開始時間			5:00	5:30	5:00	5:00							
機体数			1	1	1	1							
地区名2			片屋/下太田		杉崎/北	北/真柄	萱谷						
開始時間			5:00		5:00	5:00	5:00						
機体数			1		1	1	1		※ 各戸配布チラシについては、越前市広報紙にて折込みます。				
機体総数			2	1	2	2	1						17
総散布面積												(概算)	0.0

※ 面積については予定面積です。 1機あたり2名以上の補助者をお願いいたします。（4:50 もしくは 8:20 集合）

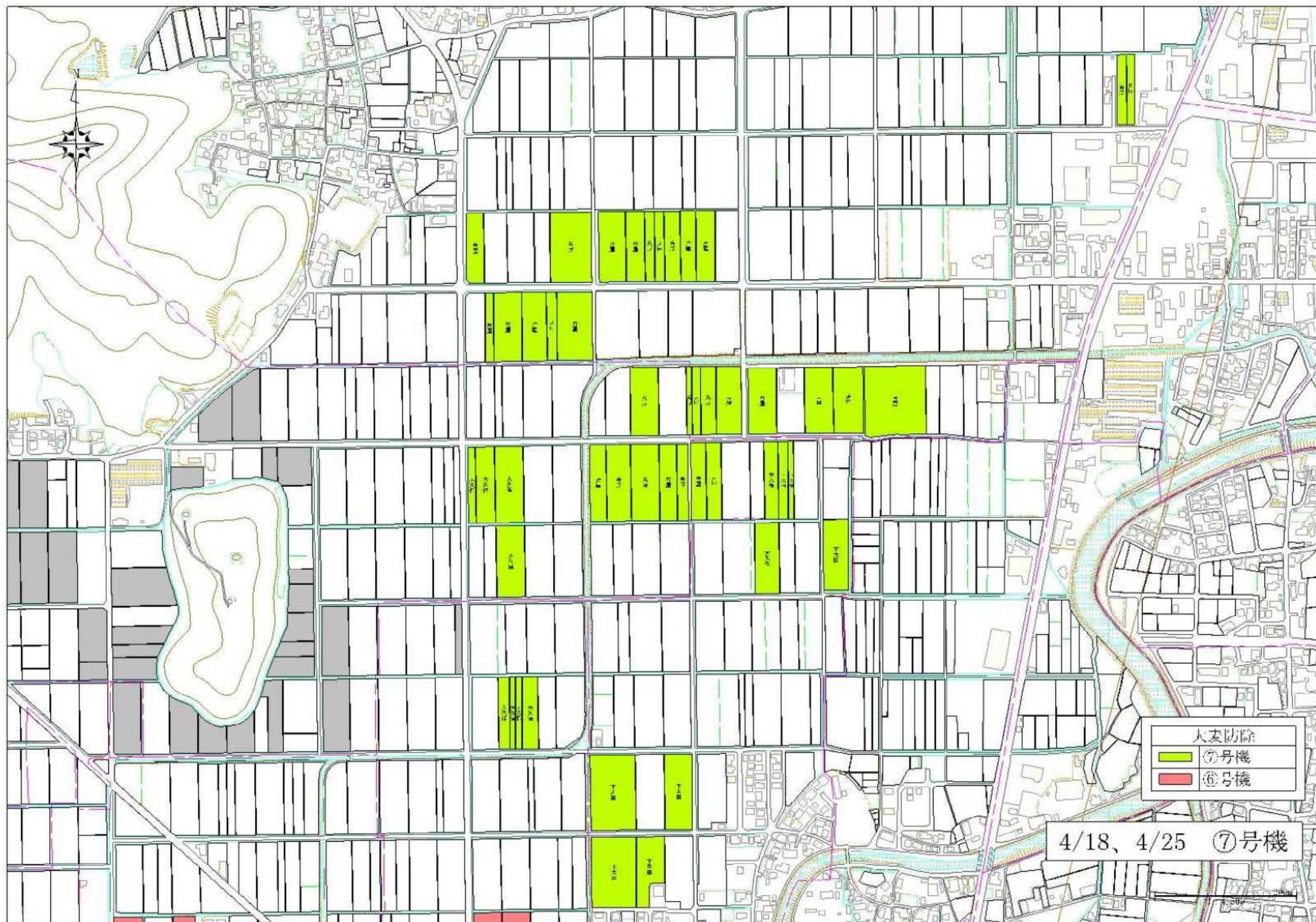
※ 雨天の場合

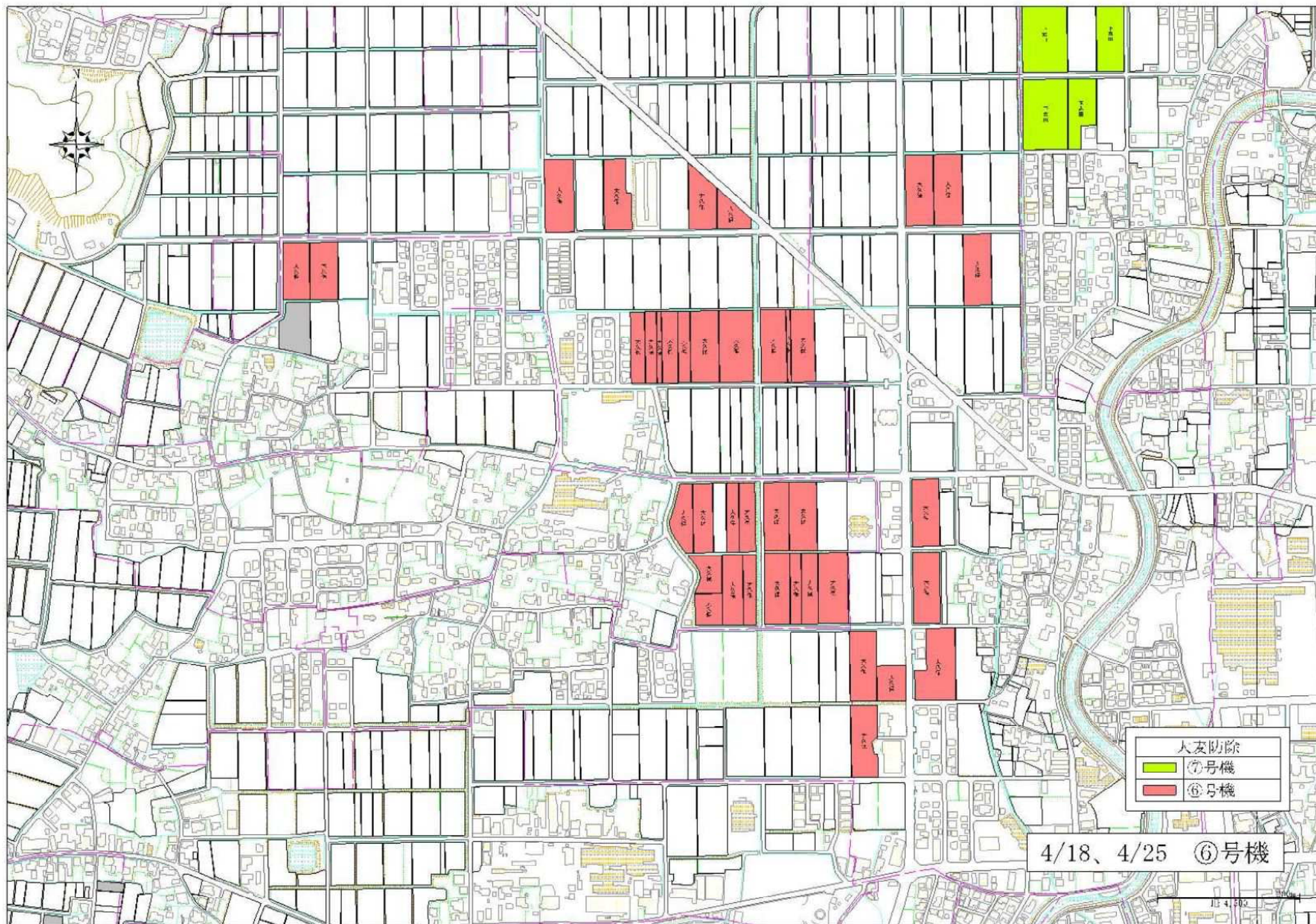
天候の回復が見込める場合・・・天候の回復を待って散布を開始します。

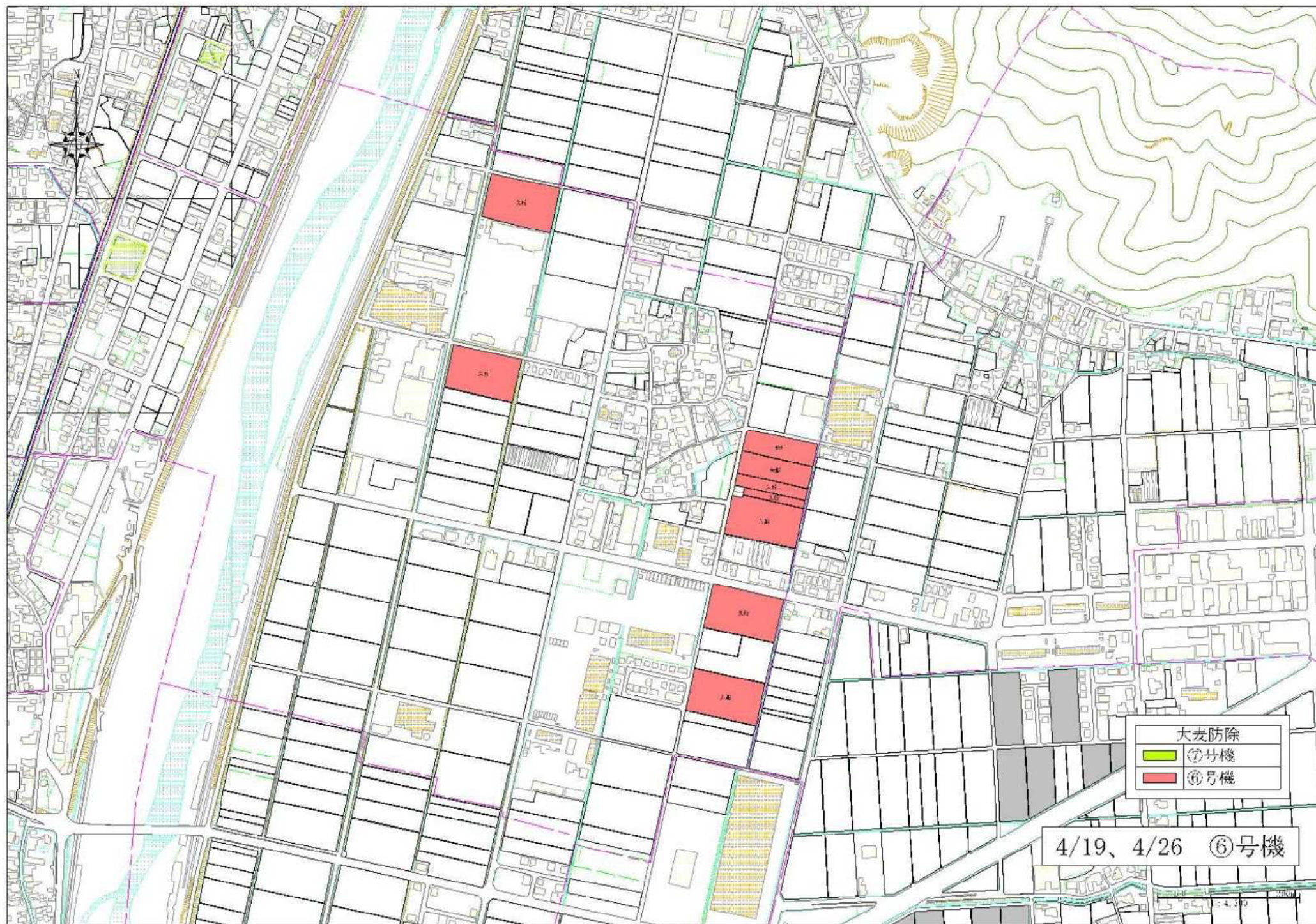
天候の回復が見込めない場合・・・他地区散布日で早朝時間が空いている場合かつ、休止時間までに散布できる場合は 他地区散布日の早朝

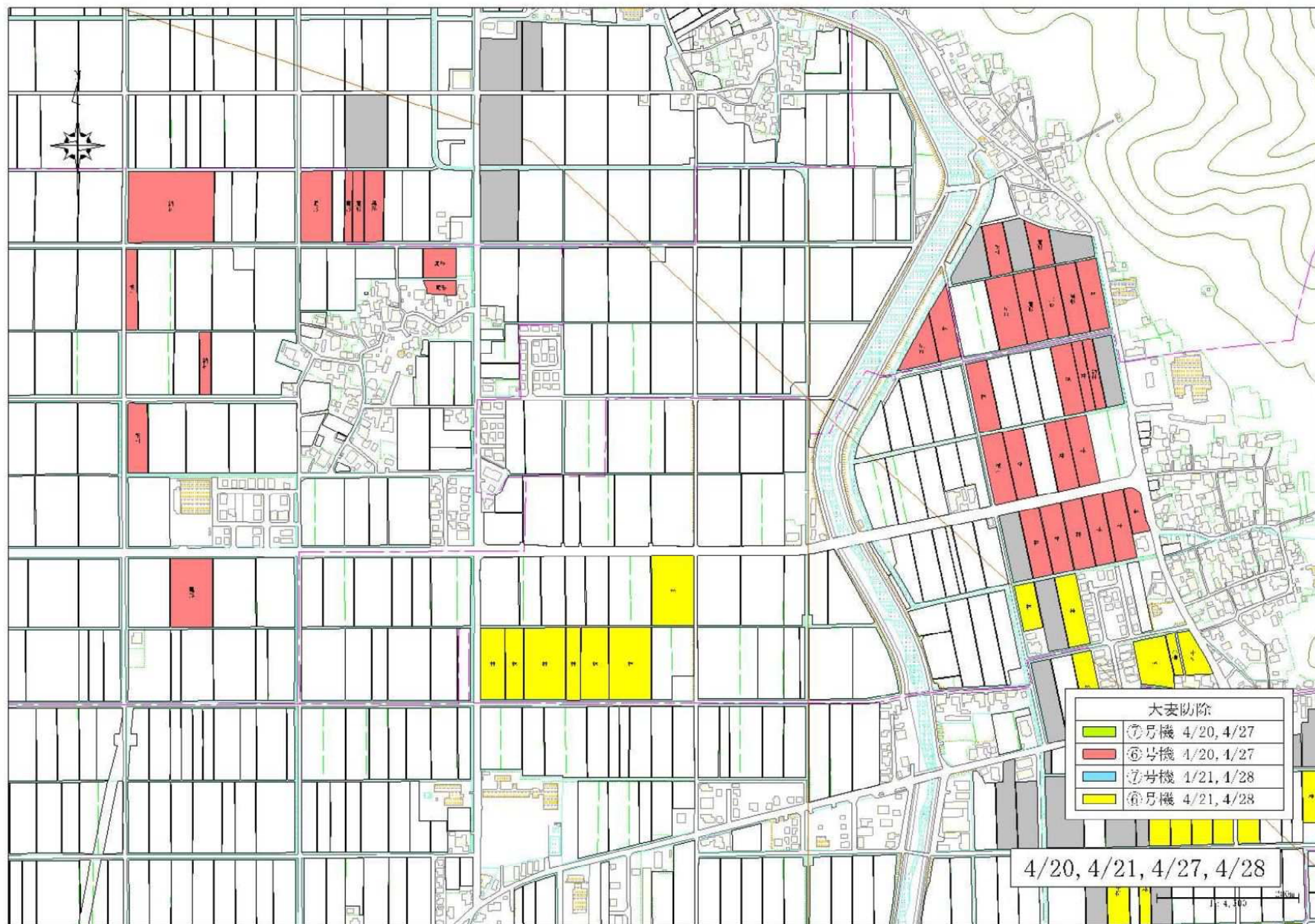
他地区散布日で早朝時間が空いている場合かつ、休止時間までに散布できない場合は 他地区散布日の夕方

※ 早朝5:00分から散布する場合の散布中止時間の設定については 午前7:00~8:30(平日)・午前7:30~8:30(休日) まで通学・通勤休止時間とする。

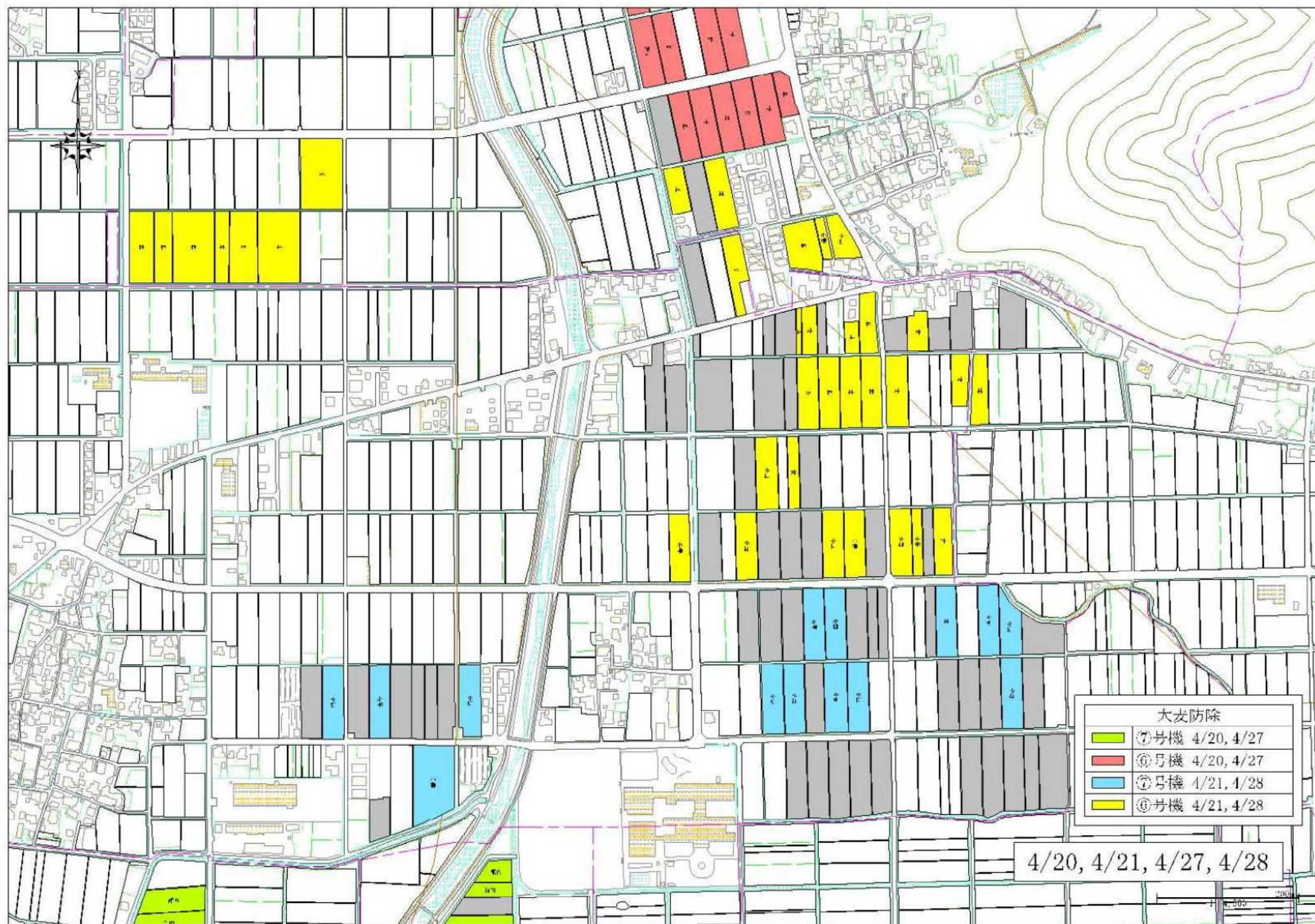


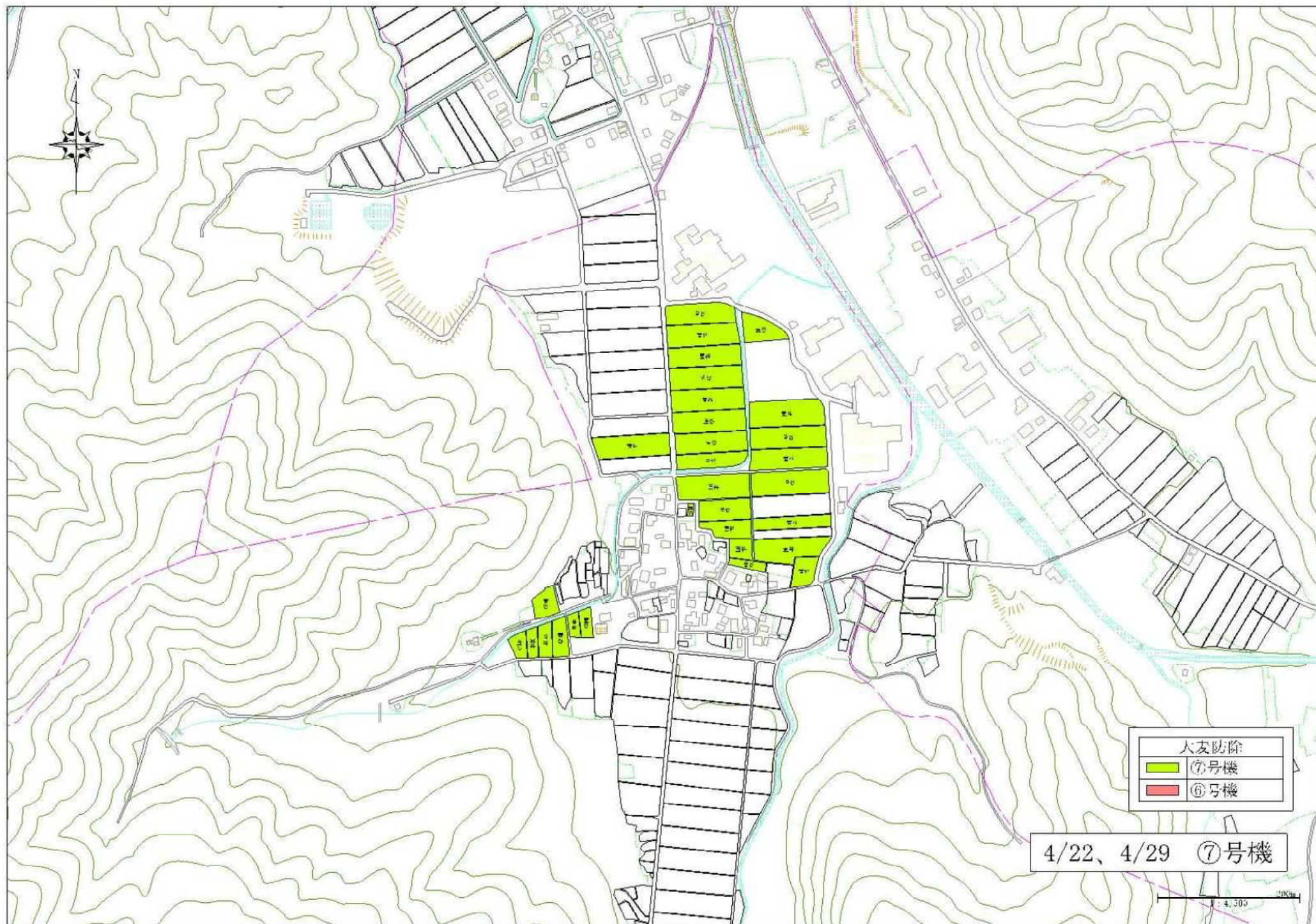














散布・空散・無人航空機
散布方法を選べる!!



様々な作物を守って
キレイに仕上がる!!

殺菌剤

トップジン[®]M ゴール

チオファネートメチル水和剤

■有効成分:チオファネートメチル…40.0%
■人畜毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■包装:500ml×20本、5Lポリ缶×4本

殺菌剤分類

1

特長

- 広範囲の作物・病害の予防と治療に優れた効果を発揮します。
- 液体タイプの剤型なので、粉立ちがなく作物が汚れにくい。
- ヘリコプターや無人航空機散布の登録を有し、散布作業の省力化がはかれます。

適用病害と使用方法

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、
本剤及びチオファネートメチルを含む農薬の総使用回数制限を示す。

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用※ 時期	総使用回数※		使用方法		
					本剤	チオファネートメチル			
稲	いもち病	1,000	60～150	14日	3回	3回 〔種子への 処理は1回〕	散 布		
		原 液	0.2				空中散布		
		4	0.8				無人航空機 による散布		
	変色米 (エピコッカム菌)	4～8							
	墨黒穂病 紋枯病	8							
	墨黒穂病 紋枯病 稲こうじ病	1,000	60～ 150				散 布		
小 麦	雪腐大粒菌核病			根雪前	3回 出穂期 以降は 2回	4回 〔種子への処理は1回 散布及び無人航空機 散布は合計3回 出穂期以降は2回〕	無人航空機 による散布		
		10	0.8	14日			散 布		
		8							
麦 類 (小麦を除く)	赤かび病	1,000～1,500	60～150		3回 出穂期 以降は 1回	3回 〔種子への処理は1回 出穂期以降は1回〕	無人航空機 による散布		
		1,500							
		雪腐大粒菌核病	8	0.8	21日 根雪前				
やまのいも	葉渋病、炭疽病		3	7日	5回	5回	無人航空機 による散布		
だ い ず	紫斑病	5	0.8	14日	4回	4回 〔種子への 処理は1回〕	空中散布		
		20～30	3						
な す	菌核病	1,000	100～ 300	前 日	5回	6回 〔種子への処理は1回 は種後は5回〕	散 布		
きゅうり	菌核病、炭疽病								
ト マ ト	葉かび病、菌核病								
たまねぎ	灰色腐敗病	600～1,000		前 日	3回	7回 〔種子への処理は1回 苗根部浸漬は1回 無人航空機散布は3回 散布は5回〕	無人航空機 による散布		
		5	0.8						
		16	2.4						
れんこん	褐斑病	20	3	75日	3回	3回	空中散布		
み か ん	そうか病		8	4～6月		5回	8回 〔塗布は3回、散布、 空中散布及び無人航空機 散布は合計5回〕	散 布	
		700～1,000	200～	前 日				8回 塗布は3回、 散布及び無人航空機 散布は合計5回	無人航空機 による散布
		1,000～2,000	700						
		20～30	10						
	10～15	5							
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害 〔青かび病 緑かび病 軸腐病〕	30	10						
		15	5						
キウイフルーツ	果実軟腐病	2,000				8回 〔塗布は3回 散布は5回〕			
も も	灰星病	700	200～ 700		6回	10回 〔塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は6回〕			
おうとう	せん孔病	1,500		14日	3回	6回 〔塗布は3回 散布は3回〕	散 布		
ぶ どう	黒とう病	1,000		45日	1回	5回 〔塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は1回〕			
			りんどう	花腐菌核病	100～700	5回		5回	
ストック	菌核病		100～ 300	発病初期					
ばら	黒星病								
プリムラ	灰色かび病								
シンビジウム	炭疽病								
ゆり	葉枯病								
きく	黒斑病、褐斑病			－					

効果・被害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきってください。
- 使用に際しては容器をよく振ってから所定量を取り出し、水に入れよく攪拌して散布液を調製してください。
- 長時間放置すると沈殿を生じることがありますが、振れば容易に元の状態に戻るため、必ず元の状態に戻してから使用してください。
- ボルドー液との混用はさけてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣るおそれがあるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合わせで輪番で使用してください。
- 大型散布機(ヘリコプターなど)で使用する場合は各散布機種別の散布基準に従って実施してください。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - (1)微量散布(0.2ℓ/10a)及び少量散布(0.8ℓ/10a)の場合は、微量散布装置以外の散布器具は使用しないでください。
 - (2)無人航空機による散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - (3)散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - (4)微量散布の場合、他の農薬との混合は行わないでください。また少量散布の場合は特定の農薬混合が可能が確認されているものを除いて原則として他の農薬との混用は行わないでください。
 - (5)散布薬液の飛散によって自動車の塗装等に被害を生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - (6)作業後は次の項目を守ってください。
 - ・使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ・使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者をきめて保管してください。
 - ・機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
- だいずの紫斑病に対しては、落花後～若英期に2～3回散布してください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に被害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意

- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - 散布の際は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意してください。
- 保 管：密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所に保管してください。

●使用前にラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は、2020年12月現在の登録内容に基づいています。



日本曹達株式会社

〒100-8165 東京都千代田区大手町2丁目2番1号
☎(03) 3245-6178 FAX(03) 3245-6084
https://www.nippon-soda.co.jp/nougoyo/

新しく、優れた、強さを。

ミラビスフロアブル

小麦の
葉枯症
適用拡大

無人航空機による少水量散布にも対応

新規系統の殺菌力で、
赤かび病防除を次のステージへ。



 **ミラビス®**
フロアブル

syngenta.

殺菌剤

シンジェンタ ジャパン株式会社

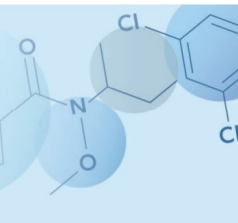
農薬をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標

ミラビスフロアブルは、新規成分アデピディンを含むSDHI系統の殺菌剤です。アデピディンはフザリウム属菌・M.ニバーレ菌由来の赤かび病に対して優れた効果を示します。またアデピディンは雨に強く、さまざまな気象条件下において安定した効果を発揮し、小麦の高品質で美しい仕上がりに貢献します。

アデピディン®とは

アデピディンは、SDHI(殺菌剤分類:7)に属し、新しい化学グループ N-メトキシ(フェニルエチル)ピラゾールカルボキサミド類に分類されます。そのユニークな分子構造と関連する特性により、次世代の殺菌剤と考えられています。



※アデピディンはミラビスフロアブルの有効成分ピジフルメトフェンの登録商標です。

もっとシンプルに、もっとパワフルに。小麦の赤かび病防除は、次のステージへ。

新規系統SDHI

- × 小麦の赤かび病防除の新戦力
- × ローテーション防除による耐性菌対策に一役
- × 独自の分子構造で優れた効果を発揮

新

優

赤かび病の原因菌に独自の優れた殺菌力

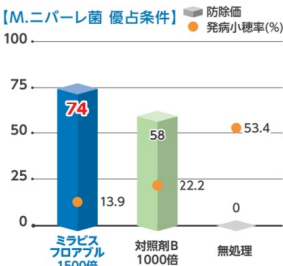
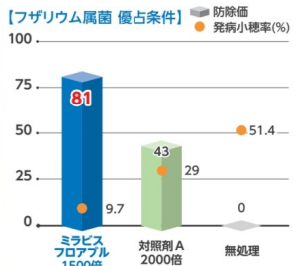
- × 発生初期の病害の進行を阻止
- × フザリウム属菌、M.ニバーレ菌に極めて高い効果
- × DON(かび毒)の低減効果

強

雨に強く、効果が安定

- × ワックス層への素早い吸着
- × 耐雨性に優れ、雨が多い時期も安心
- × 様々な条件下でも効果が安定

赤かび病に対する防除効果



【フザリウム属菌 優占条件】
2016年 北海道植物防疫協会
品種:ハルユタカ 播種:4月25日 発芽期:5月3日
接種:6月10日(F.graminearum)
発生状況:甚発生(接種)
処理日:7月1日(開花始)、7日、14日
調査日:7月30日
調査方法:各区分100穂について発病小穂率を調査した。

【M.ニバーレ菌 優占条件】
2016年 北海道立十勝農業試験場
品種:きたほなみ 播種:2015年9月17日
接種:5月25日(M.nivale)
発生状況:甚発生(接種)
処理日:6月10日(開花始翌日)、18日
調査日:7月6日
調査方法:各区分100穂程度採集し、発病小穂率を調査した。



ミラビスフロアブルを処理した小麦圃場

■適用病害の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピジフルメトフェンを含む農薬の総使用回数
小麦	赤さび病、葉枯症	1500~2000倍	50~150L/10a	収穫 7日前まで	2回以内	散布	2回以内
	赤かび病	250~500倍	25L/10a			無人航空機による散布	
		8~16倍	800mL/10a			散布	
大麦	赤かび病	1500~2000倍	60~150L/10a	収穫 14日前まで		無人航空機による散布	
		8~16倍	800mL/10a				

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

シンジェンタ ジャパン株式会社
〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワーX21階
www.syngenta.jp

